

ほっとけい会会報 美ら海・沖縄旅行

「ほっとけい会」メンバーのうち3人は4月末、那覇支局開設50周年記念パーティー(10年10月)以来、3年半ぶりに沖縄を訪れた。滞在の4日間は好天に恵まれ、沖縄タイムスOBとの再会に始まり、旧跡や米軍基地、さらに座間味島めぐりと充実した日程を消化した。例によってよく歩き、よく飲み、食べた。そのレポートを会報臨時号として特集した。

充実した沖縄の旅

「KYOTリオ」の4日間

「HOTKY (ほっとけい) 会」の名称は、メンバー5人のイニシャルの組み合わせ。今回はH(原征)とT(富田信吉)の2人が所用のため参加できず、K(久貝真澄)Y(八幡裕隆)O(荻原莞二)のKYOTリオが「きょうも元気で！」と4月25日午前、羽田を飛び立った。



高月山展望所から見た座間味港



普天間基地に並んだオスプレイ

本社から引越した共同那覇支局を表敬訪問した。中川克史支局長は2日後に控えた沖縄市長選もあつてか、パソコンと格闘中。「支局は以前より1・5倍の広さ。引越して膨大な資料の大半は整理してきまし

た」と与座光江さん。与座さんは9年10月に定年を迎えられたが、引き続き支局に勤務。「南風通信」に寄稿した「復帰40年を見続けて」でもわかるように支局とともに歩んだ生き字引的存在といえる。支局を辞して宿泊先の沖縄ホテルへ。「日本で5番目に古く、多くの著名人も泊まった由緒あるホテルだとホームページに出ていた」と荻原さん。道路から少し坂道を上がると、首里城の守礼の門に似たゲートがあつて、那覇らしい趣を感じさせられる。うれしかったのは別棟に大浴場があり、深夜に帰っても入浴OK、ついに部屋の風呂には入らずじまい。

料理で知られる「美味」での宴会。沖縄タイムスOBの大山哲、平良知二、東金城箭一の諸氏が顔をそろえてくれた。途中から中川支局長と与座さんも加わつて、座は一段と盛り上がる。タイムスと共同OBの消息や、良き時代の思い出話などに花が咲き、瞬く間に10時近くに。おいで下さった皆さん、楽しい夜をありがとうございました。那覇にきた目的の一つが果たせました。

▽石段をはい上がる

2日目はレンタカーで9時すぎに出発。嘉数高台(かかずたかだい)や道の駅「かでな」などに寄りながら米軍嘉手納、普天間の両基地を展望台から望む。普天間基地にはオスプレイが駐機していたが、離着陸の場面はみられなかった。どうやら土曜日で離着陸しないようだ。

次に目指したのは、世界遺産で国指定史跡でもある日本百名城の一つ、中城城跡(なかぐすくじょうせき)。14世紀後半に琉球石灰岩の切り石を積み上げた城壁は標高160メートルの丘陵上にある。その要害の物見台に登るのが大変。粗い石段は手すりもなく、足もとはゴツゴツで後期高齢者には難行?。手をついてはい上がる格好がおかしい、と二人に笑われる。ただし、石段の上に立つと、眼下に西は東シナ海、東に中城湾(太平洋)が、さらに勝連、知念の両半島や周囲の島々が見渡せる。「海の青さに空の青」―思わず芭蕉布を口ずさみたくなる絶景だ。六つの郭(城壁)で構成された美しい曲線で囲む築城技術は芸術的と評価され、14年前に世界遺産に登録された。

▽聖地を行く

中城城跡から南城市の「斎場御獄(せいふあうたき)」へ向かう。御獄とは沖縄に広く分布している「聖地」の総称で、琉球王朝時代にここで最高の神事が行われ、金の勾玉(まがたま)や中国の青磁器・銭貨のほか、排水溝や祈りの場を清める白砂の堆積などが発掘されている。狭くて急な山道を登りつめると、大きな鍾乳石が二本、合掌したように三角形の空間をつくる三庫理(さんぐり)という祈とう所が。東の海には神の島といわれる久高島が望める。ここからも素晴らしい絶景を見渡せる。往復1時間半の道のりは少々きつい。那覇に戻って国際通りを散策し、前夜と同じ栄町の居酒屋で連夜の小宴会。本日の歩数計は1万7629歩を表示。「坂や山道があったから2倍の歩数でもないんじゃない」と荻原さん。(2面に続く)



中城城の物見台で荻原、久貝両氏



中城城跡のお二人